

東久留米市立神宝小学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	ひらがなの定着が不十分である。 (似た形の間違えや鏡文字など)	朝学習や宿題で繰り返し練習をし、丁寧に書いたり、形を捉えたりできるようにする。文字探しやクロスワードなど、楽しみながら文字に触れる機会を増やす。	◎ワークシートで確認・チェックする。 (学期中平均90%)
	音読をする際、読み飛ばしや読み間違いのある児童が10%以上いる。	文章を指で押さえながら、範読を聞いたり、音読をしたりさせる。	○繰り返し練習をし、正確に読めるかチェックをする。(学期中80%達成)
算数	文章題を解く際、足し算と引き算を混同してしまう児童が多い。	文章の中の「あわせて」や「のこりは」など、和を求めるのか差を求めるのかが分かる言葉に線を引かせてから、立式する。自分の考えを表す場面で、図を描いてイメージを深めて立式する習慣を付けさせる。	○小テスト、プリント、発言で確認・チェックする。(学期中平均80%)
	10の数の構成理解が難しく、10までの足し算・引き算がスムーズにできない児童が10%以上いる。	フラッシュカードや計算カードを使い、数に親しむ経験を積ませる。また、語呂合わせなどで耳でも覚えられるようにする。視覚的に数を捉えられるように、具体物を操作する活動を意識的に取り入れる。	◎小テストで確認・チェックする。 (学期中平均90%)
生活	自分の育てている植物に対し、愛着をもっている児童が多い。	アサガオやサツマイモの栽培を通して、観察やお世話をする時間を継続的に設け、成長の様子や変化が分かるようにする。成長を一緒に喜ぶ経験を積んでいく。	○行動、観察カード、発言などで評価する。 (学期中平均80%)
	自然と関わる機会が少ない。	学校農園や校庭を探検する活動を取り入れ、虫を探したり季節ごとの植物を観察したりする。	◎学期に1度以上は農園へ行く計画を立てる。
道徳	生活経験に差が見られ、善悪の判断など、基本的な考え方にかかなりの個人差が見られる。	導入において、知識の補足等を行い、どの児童も発問に正対して考えることができるようにする。	○発言、発表、ワークシートなどで評価する。 (2学期中、毎授業70%)
	・教材文の理解や経験に個人差が見られるため、思考にばらつきがある。	発問を精選して授業を行う。 掲示物や板書を工夫する。 ロールプレイなどを取り入れることでより身近に感じさせ、理解しやすくする。	○発言、発表、ワークシートなどで評価する。 (学期中、毎授業70%)

東久留米市立神宝小学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	聞き方・話し方などの基礎基本の定着がされていない。既習の文字を正しい筆順で書くことが苦手な児童が多い。また、文章構成や読解力といった面で課題がある。	ひらがな、かたかな、漢字を含めた既習の文字を適切に使っているかノートやワークシートを確認し、その都度、指導をしていく。	◎小テスト、ノートやプリントで確認・チェックする。 (学期中平均80%)
	文章を順序立てて書くことが苦手で、中には何を書いていいか分からなくなる児童もいる。	机間指導や個別指導など、継続した指導を行う。単元の中で児童が感じたこと思ったことを書く学習を意図的に計画する。作文の書き方や句読点、「」の使い方などの指導を繰り返し行っていく。	◎作文や日記、日々の授業で見取る。 (学期中 絵日記：行事1回以上、朝学習：週1回は文章を書く練習をする。)
算数	単位変換や時間、10の分解や合成が苦手な児童が多く、計算に時間がかかったり、誤答してしまったりすることが多い。初歩的な計算間違いをする児童も多い。	授業の始めや朝学習の時間に、既習事項の確認を行う。必要に応じて個別に指導する。	◎小テストや確認プリント、宿題、日々の授業で見取る。(月に2回程度)
	文章問題が苦手で、問題の内容を正しく理解しないで立式したり、答える単位を見落とししたりしてしまう児童もいる。	文章の中の必要な数字や言葉に線や丸を付け言葉に線を引きよう指導し、演算決定や立式を正確にできるようにする。	◎文章問題に取り組む際に必ず実施し、教科書やプリント、ノートで学習状況をチェックする。 (学期中単元ごと4回以上)
生活	自然に触れる機会が少ない児童が多い。思ったことや感じたことを表現するのが苦手な児童が多い。	栽培・飼育体験をさせるために、学校農園、教室内での飼育・栽培などに計画的に取り組む。視覚・嗅覚・触覚など、国語で学習したことを想起させながら実際に感じたことを表現させ、全体で共有する。	◎観察したことを詳しく観察カードに書き、日々の授業で自分の考えが書けているのかチェックする。
	自分の身の回りにあるものに興味・関心が低い。	体験活動を取り入れたり、実際に歩いて確かめるなどの活動を通して、分かったことや見つけたことを表現させ、全体で共有する。	◎実際に見たり、聞いたりして確認する。まとめ方について考え、全体に発表をすることを通して、自分の身の回りについて詳しくなる。
道徳	自分の考えに自信がない児童が多く、特定の児童ばかりが発言してしまいがちである。	毎時間ワークシートを活用し、自分の考えを書いて表現し、友達に認めてもらえる機会を増やすようにする。	◎ワークシート、発表などで評価する。 (学期中毎授業ごと70%)

東久留米市立神宝小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをもつことに課題がある児童がいる。	話の聞き方の基本を確認、徹底する。対話的な活動を積極的に取り入れていく。	◎児童の様子やワークシートから見取る。 (毎単元・80%)
	漢字や言葉の意味等、定着・活用することが苦手の児童が多い。	単元導入で教科書を読ませる際に、国語辞典や漢和辞典を活用して、漢字や言葉により多く触れさせる。また、教科書音読を通して読み方を理解させる。	○ワークテスト・漢字小テスト (毎単元・80%)
算数	時刻や時間を計算で求めること、午前や午後を考えた時刻の表すことを苦手になっている児童が多く見られる。	問題文の内容を数直線に表し、計算によって時刻や時間を求める際の繰り上がり、繰り下がりを意識した学習を重ねる。	○時こく・時間を求める際のくり上がり、くり下がりを意識した学習を単位変換の学習につなげ、既習事項との関連を図った学習を重ねる。 (学期中2回、80%)
	「わり算の答えはわる数の段のかけ算九九を使って求める」「あまりのあるわり算のあまりの処理の仕方」「商とあまりの大小関係」の理解が不十分な児童が多い。	教具や図を使って題意の把握を図り、あまりの処理の仕方を考えた学習を重ねることにより、計算力をつけさせる。	○題意把握を図り、立式をしてから答えを求める力がついてきた。単位や答え方も含めた問題解決の場面を多く設け、継続した学びをさらに重ねる。
理科	観察、実験した結果のまとめから考察する際に、自分の言葉で表現することが苦手な児童がいる。	問題を意識させて、どのようなことを確かめればよかったかについて全体で共有する。また、結果からどんなことが分かるかについてペアやグループで交流させることによって解決の仕方を学ばせる。	○発言、ノート、ワークテスト (毎実験・観察80%以上)
	実験や観察に対する興味・関心は高く、意欲的に取り組んでいる。しかし、それらの結果を的確にとらえ、まとめる力が不十分である。	何のための観察か、何のための実験かを明確に示し、授業を進める。実験では「予想」「実験(観察)」「結果のまとめ」の流れを意識させる。	○ノート、ワークテスト (毎実験・観察80%以上)
道徳	自分の思いや考えを自分の言葉で表現することに苦手意識のある児童がいる。	中心発問で道徳的価値について深く考えることができるよう、発問を精選して授業をする。自己の振り返りを行う際に交流の活動を多く取り入れ、多面的・多角的な角度から様々な考えに触れさせるようにする。	○ワークシートや発言、つぶやきで評価する。 (毎時間80%)

東久留米市立神宝小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や言葉の意味など言語に関する知識や技能が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の時間などを活用し、繰り返し漢字を学習できるようにする。</li> <li>授業の中で言葉の意味を確認したり、辞書を活用させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノート、テスト、漢字プリント、授業中の発言などで評価を行う。(目標定着率80%)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えとその理由を明確にし、組み立てを考えて文章を書くことが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを書く活動を多く取り入れる。組み立ての型を示し、それに沿って書けるようにし、徐々に自分で組み立てを考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートや作文など、児童の書いた文章で評価を行う。(目標定着率80%)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1億をこえる数」の読み方・書き方、「2けたでわる数のわり算」の学習で、商の見当を付けることを苦手になっている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「1億をこえる数」は十進位取り記数法の理解、「2けたでわる数のわり算」では「1けたでわる数のわり算」の復習や振り返りを兼ねた学習を重ねさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「数を読むときと書くときの表記の仕方」「わり算の筆算の手順：たてる→かける→ひく→おろす」を意識した学習を重ね、習熟を図る。(学期中2回、80%)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>定規、1組の三角定規、分度器、コンパスを使って所定の三角形や四角形をかくことの習熟が不十分な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分度器の角の正しい読み方・かき方・表示方、1組の三角定規を使った平行・垂直のかき方・表示方の反復を図り、習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「分度器の中心を角度を測る頂点に合わせる」「所定の角の大きさが90°より大きい小さいかを把握する」などの手順を意識した学習を重ね、習熟を図る。(学期中2回、80%)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題から根拠のある予想や仮説について、自分の言葉で考えをまとめられる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然事象について、児童が自身の経験から生まれた疑問や気付きを元に予想や仮説を立てるよう促す。また上手な文のまとめ方や注目させるポイントについての言葉掛けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ノートやワークシート、授業中の発言などで評価を行う。(一単元につき2回以上、目標定着率70%)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の結果・考察・まとめを丁寧にまとめる力が十分に身につけていない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然事象の変化とその要因の関連付けを意識した実験を行い、その結果・考察・まとめを表現できるようノート指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童のノートから評価する。(毎回の実験時、目標定着率90%)</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活経験を振り返って、道徳的価値についての考えをもつことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心発問で道徳的価値について深く考えることができるよう、発問を精選して授業をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳ノート、発表などの行動観察で評価を行う。(毎時間、目標定着率90%)</li> </ul>

東久留米市立神宝小学校 第5学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<p>説明文で事実と感想、意見などの関係について、 叙述を基に読み取ることが苦手な児童が多い。</p> <p>自分の考えを的確に表現したり、構成を意識して 書いたりすることが苦手な児童が多い。また作文 用紙の使い方や段落の作り方などの書く力が定着 していない児童も多い。</p> <p>自分の考えとその理由を明確にし、組み立てを 考えて文章を書くことが苦手な児童がいる。 ・既習の漢字や言葉、工夫した表現を文章等で 活用する力が十分でない。</p>	<p>発言する児童の意見をノートに写すことに終始し てしまい、自分で考えることまで意識がいかない 児童が半数いる。そこで自力解決の時間をしっか りと保証し、その後全体で共有しながら確認でき るようにする。</p> <p>様々な場面で文章を書いたり、自分の考えを表現 する学習を積極的に取り入れる。国語の「書く」 単元では、その都度作文用紙での書き方について 繰り返し指導していく。</p> <p>組み立てメモを丁寧に指導したり、それについて グループで交流して深めさせたりする。 間違えやすいところを確認しながら漢字の指導を する。また、朝学習を活用して、短作文を書く機 会を増やしたり、辞書を活用したりする。</p>	<p>○ノート、ワークシート、発言でチェックする。 (学期中80%)</p> <p>○ノート、作文でチェックする。 (学期中80%)</p> <p>○ノート、ワークシート、作文、発言でチェッ クする。 (学期中80%)</p> <p>○短作文、小テスト、ノートでチェックする。 (学期中80%)</p>
算数	<p>混み具合や人口密度を単位量当たりの量を使っ た式に表したり、所定の位までの概数を使って 求める問題を苦手になっている。</p> <p>小数のかけ算やわり算の習熟が不十分な児童が 見られる。</p>	<p>「どの位までの概数で求めるか」「どの位を四 捨五入するのか」の既習事項を兼ねた学習を重 ねる。</p> <p>「これまでに習ったかけ算やわり算とのちがいは どこにあるのか」「そこから分かったことは何な のか」を明確にし、次時以降の学習に活かせるよ うに、系統性と統一性を図った授業を展開する。</p>	<p>○復習プリントや単元末プリントなどで、題意 把握と四捨五入する位や答えの表し方を意識し た学習を重ね、習熟を図る。(学期中2回、8 0%)</p> <p>○既習事項を活用して未習事項を解決する学習 を重ね、復習と習熟を図る。(学期中2回、8 0%)</p>
理科	<p>問題に対しての予想を基に実験方法を考える際 に、条件制御をしながら計画を立てることにま だ慣れていない。</p> <p>実験や自然事象から気付いたことや考察したこ とを文章や図・イラスト等で表現することを苦 手としている児童が少なくない。 実験結果から「何が分かったのか」に結び付け て考えることが苦手な児童が多い。</p>	<p>・予想を基に一つ一つの実験の条件を整理しな がら、ワークシートやデジタル教科書を活用し て児童に正確に実験方法を理解させる。</p> <p>結果について考えるときに必ず問題を振り返る よう言葉掛けをしたり、結果を分かりやすく整 理するワークシートを活用したりして、児童の 思考を整理する。</p>	<p>○ノート、ワークシート、テストでチェックす る。 (学期中80%)</p> <p>○ノート、ワークシート、発言を評価すること によって、整理したノートの書き方をしようと する意欲を高めている。(学期中80%)</p> <p>○テスト、小テスト、ワークシートでチェッ クする。(学期中80%)</p>
道徳	<p>自分の意見をもつことに課題がある児童や積極 的に発言しようとする児童が少なく、全体で交 流が深まらない。</p>	<p>ワークシートや思考ツールを活用して、自分の 意見や立場を明らかにした上で、話し合いに臨ま せることによって多様な意見に触れさせる。</p>	<p>○ワークシートの内容や発言を認めること によって、自分の考えを表現しようとする態度を 高めている。(学期中80%)</p>

東久留米市立神宝小学校 第6学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	自分の考えを的確に表現したり、構成を意識して書いたりすることが苦手な児童が多い。作文用紙の使い方や段落の作り方などの書く力が定着していない児童が多い。	表現を工夫した文の例を示し、工夫の視点を明確にさせる。文章を書く際には、事実と自分の考えを明確にする構成メモを作成し、それを基に書かせる。	○行事ごとに作文を書き、チェックする。（学期中80%到達） ○ノート・ワークシートをチェックする。
	言語に関する知識・理解・技能について、定着が低い。特に、既習事項の漢字や熟語の定着が曖昧な児童が多い。	漢字小テストを定期的実施する。間違った問題については、必ず直す機会を設けるとともに、再テストを実施するなどし、繰り返し練習する機会を与える。	○漢字小テストや再テストをチェックする（学期中80%未満）
算数	「ならべ方と組み合わせ方」の問題を解決することはできるが、教科書の考え方や式を理解できない児童がいる。	「一つ一つの式が何を表し、それがどこを示しているのか」を考えさせながら、「式を読む」学習を各単元で展開する。	○問題文から「分かっていること」「求めること」を読み取り、「式を読む」ことにつなげ、1つの問題を多面的・多角的にとらえる学習を重ねる。（学期中2回、80%）
	分数×分数、分数÷分数の計算はできても、なぜ、その式や答えになるのかを理解できていない児童が多く見られる。	数直線や図を使って表したり、□や文字を使ったかけ算の式に表したりする学習を重ねる。	○「問題文の場面を数直線や図を使って表す」ことを場面や数字が変わっても活用できることを意識した学習を重ねる。（学期中2回、80%）
理科	条件制御の考え方は理解しているが、条件に着目しながら実験計画を立てることに課題がある。	実験計画を立てることを個人や全体で繰り返し行わせることによって、条件制御の経験を積み重ねられるようにする。	○ノート、ワークシート、テストでチェックする。（学期中80%）
	実験や観察の結果から、自然現象の相互の関係や規則性、働き等についてより妥当な考えをもち、表現することが苦手である。	着目すべき条件や結果の違いを見付け出せるよう言葉掛けをする。また、それらを考察やまとめで表現できるよう、グループ交流を行う。再実験や模範実験等を活用しながら実感を伴う学習を促すことができるようにする。	○ノート、ワークシート、発言を評価することによって、整理したノートの書き方をしようとする意欲を高めている。（学期中80%） ○テスト、小テスト、ワークシートでチェックする。（学期中80%）
道徳	自己を振り返り、積極的に考えたり発言したりすることが十分ではない。一面的な見方・考え方の児童が多い。	互いの意見を全体で共有することにより、人によって様々な考え方・感じ方があることを多面的・多角的に考えることができるようにする。	○ワークシートやICTを活用し、チェックする。（学期中90%）
	資料を読み、人物の気持ちを考えることはできるが、考えを発言する児童に偏りがある。	人物の心情や、話し合いの過程が分かるように板書の仕方を工夫する。書く時間を十分確保したり、机間指導時に言葉掛けをしたりして、自分の考えに自信をもたせる。	○ワークシートやICTを活用し、チェックする。（学期中90%）